

2019年4月改訂
2017年11月作成

貯法 室温保存

動物用医薬品

承認指令書番号 16消安第3993号

β-ラクタム系抗生物質製剤
(細菌性感染症治療剤)

要指示医薬品 指定医薬品 使用基準

パーレシン®粒

Paresin®

【本質の説明又は製造方法】

本剤は、アンピシリンを含有する経口投与剤であり、経口投与により腸管から速やかに吸収され有効血中濃度が得られる。また、胆汁中に高濃度に排出されるので、上部消化管感染症に有効である。

【特長】

1. アンピシリンは、広範囲の抗菌スペクトルを有し、グラム陽性菌のみならず、グラム陰性菌に対しても殺菌的に作用する。
2. 耐酸性で、経口投与で速やかに吸収される。
3. 胆汁中に高濃度に排出されるので、上部消化管感染症に有効である。
4. 忍容性は良好である。
5. パーレシン粒は、4gずつ分包してあるので、薬剤の秤量の手間が省け、子牛、豚への投薬に便利である。

【成分及び分量】

品名	パーレシン粒
有効成分	アンピシリン
含量	100g中にアンピシリン10g(力価)を含有する。

【効能又は効果】

- ・有効菌種
ブドウ球菌、クロストリジウム、大腸菌、サルモネラ
- ・適応症
牛：細菌性下痢症
豚：細菌性下痢症
鶏：ブドウ球菌症、壊死性腸炎、大腸菌症

【用法及び用量】

1日1回、体重1kg当たり、アンピシリンとして下記の量を強制的に経口投与するか、又は飲水に溶かして、若しくは飼料に均一に混じて経口投与する。

牛(生後6ヵ月を超えるものを除く)：4～12mg(力価)
豚：4～12mg(力価)
鶏：5～20mg(力価)

ただし、重症例には上記量の1日2回又は上記量の倍量まで増量する。
製剤の1回投与量は、おおむね下記のとおりである。

	体重又は月齢	1回当たりの 投与量(g)
子牛	70kg(約1ヵ月齢)以下	4～5
	70kg(約1ヵ月齢)以上	8～10
豚	1ヵ月齢以下(1腹につき)	4～5
	1ヵ月齢以下(2頭につき)	2～3
	4ヵ月齢以上(体重10kg当たり)	0.4～1.2

	週齢		100羽 1日分(g)
	採卵鶏	肉用鶏	
鶏	0～1		0.5～1.0
	2～3	1	1.0～2.5
	4～5		2.5～4.0
	6～7	3	4.0～5.5
	8～10		5.5～7.5
	11～15		7.5～12.0
	16～20	5	10.0～15.0
	21以上	7	15.0～20.0

【使用上の注意】

(基本的事項)

1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- ・本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- ・本剤は、効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- ・本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。
- ・本剤の使用に当たっては、治療上必要な最小限の期間の投与に止めることとし、過剰にわたる連続投与は行わないこと。
- ・本剤は、「使用基準」の定めるところにより使用すること。

注意：本剤は医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、使用対象動物(牛(生後6ヵ月を超えるものを除く)、豚、鶏)について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守してください。

牛(生後6ヵ月を超えるものを除く)	：食用に供するためにと殺する前5日間
豚	：食用に供するためにと殺する前5日間
鶏	：食用に供するためにと殺する前2日間

(取扱い及び廃棄のための注意)

- ・小児の手の届かないところに保管すること。
- ・本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。
- ・使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
- ・誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。
- ・本剤を人工乳、飲水等に溶解後、すぐに投与すること。
- ・変色が認められた場合には使用しないこと。
- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ・誤って本剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。
- ・本剤が目や皮膚に付着した場合は作業後には水で洗い流すこと。
- ・作業時には、防護メガネ、マスク、手袋等の防護具を着用し、眼、鼻、口等に入らないよう注意すること。

(対象動物に関する注意)

- ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(専門的事項)

対象動物の使用制限等

- ・アンピシリンはペニシラーゼ産生菌には通常奏効しないので、この場合は他の薬剤を使用すること。
- ・本剤は、まれにショック症状やアレルギー症状を起こすことがあるので、投与前に使用経歴や反応の有無を調べ、陽性動物には投与しないこと。

【薬理学的情報等】

(薬効薬理)

有効成分であるアンピシリンは、6-aminopenicillanic acidの誘導体で、広範囲の抗菌スペクトルを有し、ブドウ球菌、連鎖球菌等のグラム陽性菌のみならず、大腸菌等のグラム陰性菌に対しても殺菌的に作用する。

【包装】

80g (4g×20分包)

【製品情報お問い合わせ先】

MSDアニマルヘルス株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北一丁目13番12号

TEL 03-6272-1099 FAX 03-6238-9080

製造販売元

MSDアニマルヘルス株式会社
東京都千代田区九段北一丁目13番12号



獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>) にも報告をお願いします。